

## 紀伊における環畿内型埴輪(紀伊型埴輪)研究の現状と課題

藤 藪 勝 側

### 1. 研究史

#### 1) 検討会編年 V 期における円筒形埴輪の分類

##### A. 紀伊型埴輪、畿内型埴輪の設定(河内 1988)

###### 紀伊型埴輪

- ・箱谷 3 号墳(6 世紀前半)の円筒形埴輪を指標とする
- ① 断面形は寸胴(逆台形状)である
- ② 口縁部が外部上方へ肥厚する
- ③ 外面一次調整にタテハケ、2 次調整にヨコハケを施す
- ④ 突帯 M 字状で乱雑

###### 畿内型埴輪

- ・天田 28 号墳(6 世紀前半)の円筒形埴輪を指標とする
- ① 断面形は器高が高くすらりとする
- ② 口縁部は端部が強くヨコナデされ凹む
- ③ 外面一次調整にタテハケ、2 次調整を欠く
- ④ 突帯 M 字状で粗雑
- ⑤ 底部に板状工具による押圧(底部調整)あり

#### 埴輪生産体制

紀伊型埴輪・・・「移動型」、畿内型埴輪・・・「一元供給型」

系譜の異なる 2 系統の埴輪が存在することを指摘

##### B. 大和 A 類、大和 B 類、大和 C 類の設定(鐘方 1992)

###### 大和 A 類・・・河内「畿内型」に対応

- ① 断続ナデ技法をもつ
- ② 底部高、突帯間隔、口縁部高が均等に割り付けられる
- ③ 外面一次調整タテハケのみ
- ④ 底部調整に板状工具による押圧がみられる

###### 大和 B 類・・・河内「紀伊型」に対応

- ① 断続ナデ技法をもたない
- ② 底部高が高い
- ③ 外面二次調整にヨコハケを施す

###### 大和 C 類

- ① 断続ナデ技法をもたない
- ② 底部調整は施さない

C.V群、V群系、IV群系B類の設定(鐘方 1999)

V群

- ①外面一次調整タテハケのみ
- ②底部高、突帯間隔、口縁部高が揃わないもの

V群系・・・河内「畿内型」

- ①外面一次調整タテハケのみ
- ①最下段突帯に断続ナデ技法をもつ
- ②突帯間隔、底部高、口縁部高が揃わないもの

IV群系B類・・・河内「紀伊型」

- ①突帯間隔を揃える
- ②底部を高く製作する
- ③外面二次調整にヨコハケを施すことを特徴とする

鐘方による底部高の分類

A類・・・底部高と突帯間隔を揃えるもの。畿内及び西日本ではこれが主体となる。

B類・・・底部高を高く製作するもの

東日本の円筒形埴輪(2条突帯)ではⅢ・Ⅳ期の属性としてみとめられる形態  
畿内及び西日本ではⅤ期に出現する

D.環畿内型埴輪の設定(河内 2003)

古墳時代後期の円筒形埴輪編年・・・系譜として2系統の枠組み  
播磨、但馬、近江(近江2類、辻川 2003)、山城、紀伊、大和に分布  
畿内型(V群・V群系)の周縁部にIV群系B類(=紀伊型)が点在

→各地域における細分と枠組みの構築を目的として提唱

2) 検討会編年Ⅴ期における円筒形埴輪の系譜

田辺編年 TK-23・47 型式期における2条突帯B類から3条突帯B類への変遷

A.2条突帯B類の位置付け(鐘方 1999)

川西Ⅰ・Ⅱ期

宮山型特殊器台と特殊器台型埴輪(都月)における文様帯の段数に多様化  
文様帯3段(6・7条突帯)、文様帯4段(4・5条突帯)  
文様帯一段構成(2条突帯)の創出。主体的に樹立された痕跡は明確でない  
東殿塚古墳・・・2条突帯は墳丘裾部に局地的使用されている  
3条突帯の出現・・・文様帯2段(4条突帯)の無紋帯の省略

川西Ⅲ期

畿内・西日本・・・定型化するものの埴輪列の主体とならない  
局地的、限定的に使用された特殊な埴輪  
→ 上部に何らかの埴輪を載せていた可能性を指摘  
東日本・・・2条突帯の樹立。古墳の序列化に伴い、埴輪の序列化。

### 川西編年Ⅳ期

畿内・・・古墳の序列化に対応した埴輪の重層的な序列化が進む

→ 3条突帯以上の埴輪と比較して扱いの低い限定的な使用で、樹立古墳も最小規模の方墳など小規模である。墳丘をめぐる埴輪列の主体とならない。底部高、突帯間隔、口縁部高が揃う。

西日本・・・一部地域(丹波、播磨、出雲、伯耆)では2条突帯A類が主体。畿内では、3条突帯以上の埴輪が主体として樹立される。

東日本・・・2条突帯B類が主体として樹立される。畿内及び西日本との序列化。底部高の高い一群が主体となる → 底部高が高い(都月型埴輪以来の形態的系譜)

### 川西編年Ⅴ期

V群・V群系・IV群系埴輪の出現・・・埴輪製作工人の再編

畿内・・・V群系埴輪とIV群系B類 古墳時代後期における円筒形埴輪の2系統。

「この系統差を基本として後期における相対的な地域色の発現が生じてくるのではないか」 V群系埴輪の優位性を指摘

#### B. 畿内及び西日本にける3条突帯から2条突帯B類への規格の変化

埴輪製作集団の再編成後、2条突帯埴輪製作工人は、3条突帯埴輪と高さを揃える意図のもと3条突帯の最下段突帯を省略→底部高の高い2条突帯B類が創出されたとする。

畿内周辺部・・・紀伊では、この時期に晒山7号墳、花山45号墳において2条突帯B類やIV群系B類がみられる。2条突帯B類は継続しない。

IV群系B類・・・2条突帯B類、3条突帯B類

このうち2条突帯B類は3条突帯A類の系譜上で理解できる

3条突帯B類→埴輪製作工人の再編成を背景に成立か？

#### C. 2分割突帯埴輪の位置づけ(河内 2003)

2分割突帯埴輪・・・突帯の割り付け方法として、底部高＝突帯間隔＋口縁部高となる晒山7号・花山45号墳出土資料をIV群系B類の範疇と把握して、2条突帯B類から3条突帯B類への系譜上の繋がりを想定。

河内が提唱した「紀伊型」という型式名称は、紀伊では2条突帯B類が認められる前段階の埴輪として、淡輪技法をもつ須恵器系埴輪が一般的である紀伊では、系譜としてつながらない。

つまり、出現過程が明らかにされなければ、紀伊型という型式呼称を使用することは適切ではないとされた。

### 3) 検討会編年Ⅴ期における円筒形埴輪の編年

#### A. 検討会編年

V-1段階・・・V群系の出現

V-2段階・・・断続ナデBの出現

V-3段階・・・復古調埴輪の顕在化

V-4段階・・・日置荘窯系の出現

V群系埴輪を主体とするもので、IV群系B類埴輪の編年的位置付けが必要。

B. 紀伊における紀伊型(環畿内南部型)埴輪の編年(若松 2002、河内 2003、藤藪 2006)

・河内・・・2分割突帯という突帯割り付け方法の類型化と2分割突帯で割り付けられた2条突帯  
B類からの派生した3条突帯。

花山グループ・・・2分割突帯を重視する花山6号墳(6世紀前半)→鳴滝2号墳

大谷山グループ・・・2分割突帯を軽視する大谷山 27 号(6世紀前半)→箱谷3号墳

・藤藪・・・河内の2分割突帯の類型化を組み替え外面2次調整の有無などとともに類型化  
突帯割付方法・・・2分割法(河内 2004)の原則とその崩壊の度合いによって5類型に分類  
外面2次調整・・・施す範囲によって3類型  
突帯の条数・・・3類型

これらの6世紀段階における紀伊型埴輪の編年上の系譜について

若松・・・晒山7号墳、花山 45 号墳出土2条突帯B類を紀伊型に含めその祖型とみる。

淡輪技法をもつ須恵器系埴輪からの影響を示唆。

河内・・・晒山7号墳、花山 45 号墳出土埴輪を紀伊型に含めない。

藤藪・・・晒山7号墳、花山 45 号墳出土埴輪を紀伊型に含めない。晒山 10 号墳出土埴輪(紀  
ノ川北岸産紀伊型埴輪)の口縁部の製作技法は、突帯口縁にその系譜が求められ  
るとし、紀伊型埴輪の系譜としては、

→「5世紀段階の埴輪製作技術の諸要素が複合的に結集された姿」

4) 近年における研究の現状

A. IV群系B類埴輪の出土例

大和南西部・・・四条古墳群(3条突帯)、三倉堂遺跡(2条突帯)、タニグチ2号墳(2条突帯)、  
新沢 166 号墳(2条突帯)、同 175 号墳(3条突帯)、石光山 20・41 号墳(3条突  
帯)、忍海H-19 号墳(3条突帯?)、清水谷1号墳(3条突帯?)

※同じ古墳群内においてIV群系B類とV群系の両方がみとめられる場合、明  
確に区別され、墳丘規模の大きなものにV群系が樹立される傾向にある。また、  
同じ古墳内において両者が共伴しない(鐘方 1999)。

紀伊・・・花山 45 号墳・晒山7号墳(2条突帯)、花山6号墳(3条突帯)、背見山古墳(3条突帯)、  
万葉植物園(3条突帯)、箱谷3号墳(3条突帯)、鳴滝2号墳(4条突帯)、花山古墳群表  
採(5条突帯)、山崎山 12 号墳、大谷山 27 号墳、三味塚古墳、大日山 35 号墳、鳴神遺  
跡群

※同じ古墳内にV群系とIV群系B類が共存(大日山 35 号墳)

近江・・・林ノ腰古墳(4条突帯)、御明田1号墳(3条突帯)、大篠原西遺跡、六条遺跡(2条突帯、  
尾張系)

山城・・・堀切7号墳(2条突帯、尾張系)

播磨・・・亀塚古墳(2条突帯)、長尾タイ山1号墳(3条突帯)

伊勢・伊賀・・・キラ土古墳(2条突帯、淡輪系)

北部九州・・・猫石丸山古墳、狐塚1号墳、寺山古墳、火打塚古墳、伝二子塚古墳(2条突帯)、八幡古墳(2条突帯)、大城大塚古墳(淡輪系)、真玉大塚古墳(淡輪系)  
東海・・・須恵器系埴輪(淡輪系埴輪と尾張型埴輪)がIV群系B類(2条突帯)を主体とする。

※淡輪系は尾張型分布圏の周縁部に分布する。

#### B.IV群系B類埴輪の分類と系譜の再構築(河内 2011、藤藪 2011)

紀伊型埴輪設定以降の畿内周辺部における資料の増加と研究の進展に伴い、また鳴神遺跡群出土埴輪の再検討を行うなかで、河内による分類と編年の再構築の必要性がでてきた。

##### ・鳴神V遺跡出土埴輪の再検討(藤藪 2011)

鳴神遺跡には、古墳時代前期から後期にかけての小型の方墳群が築造されており、そこに樹立されていた埴輪としてV群もしくはV群系、IV群系B類、淡輪技法をもつ埴輪がある。

→ 紀伊型埴輪の位置付けについては環畿内南部型埴輪内の一形態差として認識しておきたい。

##### ・鳴神埴輪窯の再検討(河内 2011)

大日山 35 号墳において畿内型と紀伊型が共伴していること、また鳴神山口コレクションの埴輪紀伊型の形態であるのに外面一次調整タテハケのみであること、

→ 畿内型と紀伊型の融合

紀伊地域にみられる古墳時代後期円筒形埴輪の再分類(12 類)

→ 畿内型と紀伊型で2分できない。天神山古墳(3類)、晒山 10 号(外面1次調整タテハケ 4類)、船戸箱山古墳(11 類)などが出現。

紀伊型埴輪・環畿内型埴輪という呼称及び概念の撤回

→ 「紀伊地域で見られる埴輪群」

## 2. 今後の課題

### A. IV群系B類の細分

2条突帯B類・・・検討会編年Ⅱ～Ⅴ期にかけて継続的に認められ、畿内及び西日本では、その樹立形態が局所的で限定的な一群。

3条突帯B類・・・検討会編年Ⅴ期段階で定型化。Ⅴ群出現期の埴輪製作工人の再編成として認識されている変革期に出現する。

この2つの底部高の高い一群は、定型化する時期が異なる。また2条突帯が畿内及び西日本において局所的・限定的に樹立されていたことを考慮すると、3条突帯とは系譜上異なるものと考えられる。検討会編年Ⅴ期以降にみられる3条突帯以上の底部高の高い一群を、古墳時代後期における円筒形埴輪の地域色を顕在化させた一群ととらえることにしたい。またその呼称については、現段階では鐘方分類を用いIV群系B類と呼ぶが、検討会編年Ⅴ期にみられるIV群系B類には2条突帯を含まないものとする。またその成立の背景には、埴輪製作工人の再編成が前提となる。

## B.IV群系B類にみられる特徴

### ・最下段突帯の間隔

突帯の割り付けが行われていると考えられるこれらの埴輪のうち、最下段突帯と第2段目突帯の間隔がやや狭く設定されている資料がある。

大和・・・四条シナノ古墳(3条突帯)、近江・・・御明田1号墳(3条突帯)、紀伊・・・花山古墳群表採資料(5条突帯)など → 倒立技法、もしくは須恵器系埴輪との形態的類似性

### ・ヨコハケを施さないIV群系B類埴輪

V系群埴輪との接点・・・晒山10号墳(背見山古墳)、鳴神V遺跡

紀ノ川北岸

晒山10号墳のIV群系B類・・・須恵質に焼成、断面台形の突帯、外面1次調整タテハケのみ、胎土に結晶片岩を含まない(紀ノ川北岸産)

土師質に焼成、断面M字状突帯、外面2次調整タテハケ後ヨコハケ、胎土に結晶片岩を含む(紀ノ川北岸産)

紀ノ川南岸

鳴神V遺跡IV群系B類・・・断面台形の突帯、外面一次調整タテハケのみ

胎土には結晶片岩が含まれているのかどうか?

## C.須恵器系埴輪との関係

### ・須恵器系埴輪との共通性(鐘方 2003)

淡輪技法をもつ埴輪及び尾張系埴輪の分布域とIV群系B類埴輪の分布域が共通する。

## 参考文献

河内一浩「古墳時代後期における紀伊の埴輪生産について」『求真能路』巽三郎先生古希記念論集 1988

鐘方正樹・中島和彦「菅原東埴輪窯跡群をめぐる諸問題」『奈良市埋蔵文化財センター紀要 1991』奈良市埋蔵文化財センター 1992

鐘方正樹「2条突帯の円筒形埴輪」『埴輪論叢第1号』1999

若松良一「埴輪の地域性-紀伊の埴輪のありかたから探る-」『研究紀要第17号』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002

鐘方正樹「円筒埴輪の地域性と工人の動向」『埴輪-円筒埴輪製作技法の観察・認識・分析-』第52回埋蔵文化財研究集会実行委員会 2003

河内一浩「古墳時代後期における円筒形埴輪の研究動向と編年」『埴輪論叢第4号』2003

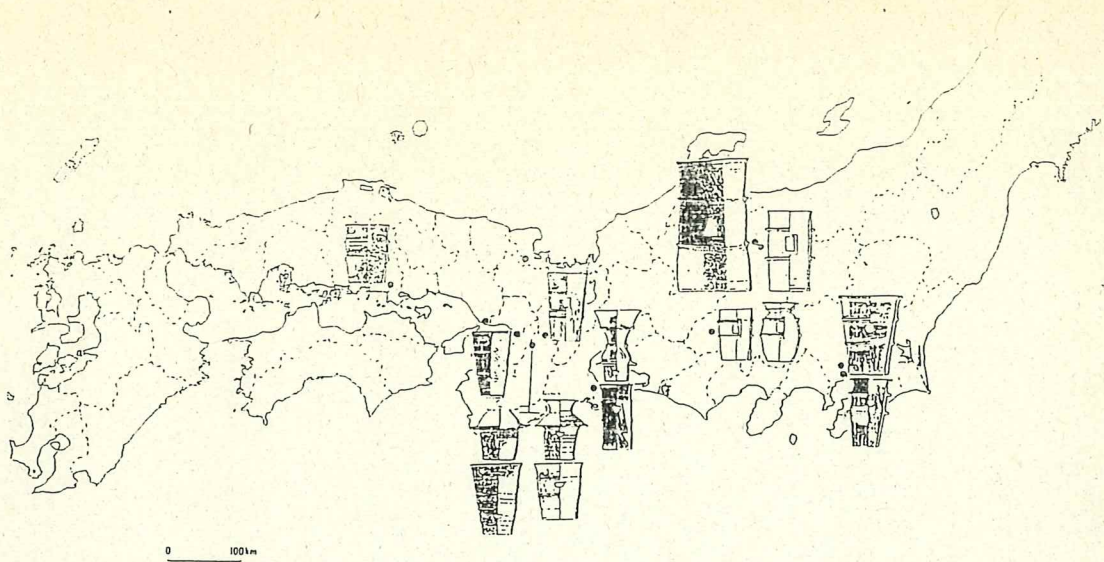
辻川哲朗「近江における古墳時代中・後期の円筒埴輪-長浜古墳群・息長古墳群を中心として-」『日経知らず可き王無し-継体大王の出現-』(平成16年度春季特別展図録)滋賀県立安土城考古博物館 2003

河内一浩「紀伊型円筒形埴輪再考」『地域と古文化』『地域と古文化』刊行会 2004

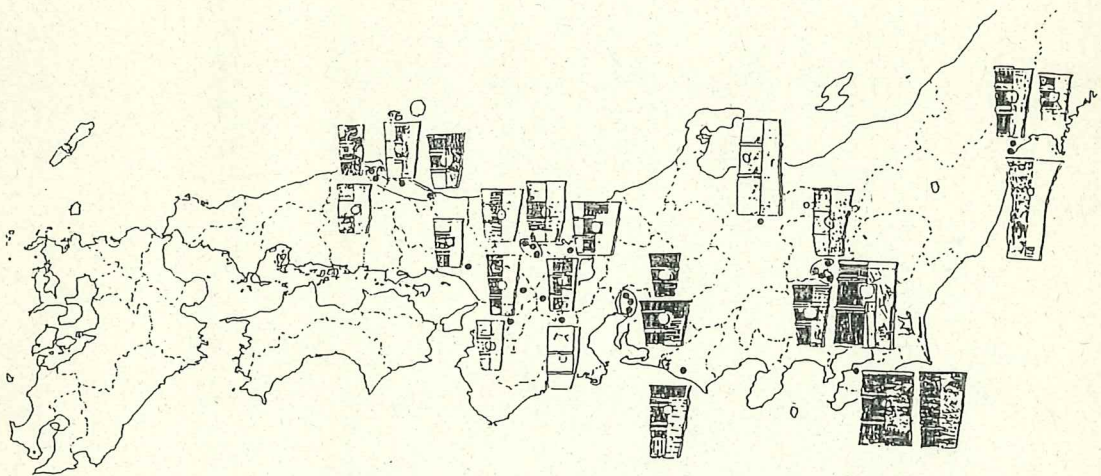
藤藪勝則「古墳時代後期における円筒形埴輪の一樣相-いわゆる紀伊型(環畿内南部型)埴輪について-」『紀伊考古学研究第9号』紀伊考古学研究会 2006

河内一浩「和歌山市・鳴神埴輪窯の再検討-紀伊の後期円筒埴輪について-」『堀田啓一先生喜寿記念 献呈論文集』2011

藤藪勝則「紀ノ川南岸平野部出土の埴輪-鳴神V遺跡出土埴輪の再検討を中心として-」『紀伊考古学研究 第14号』2011

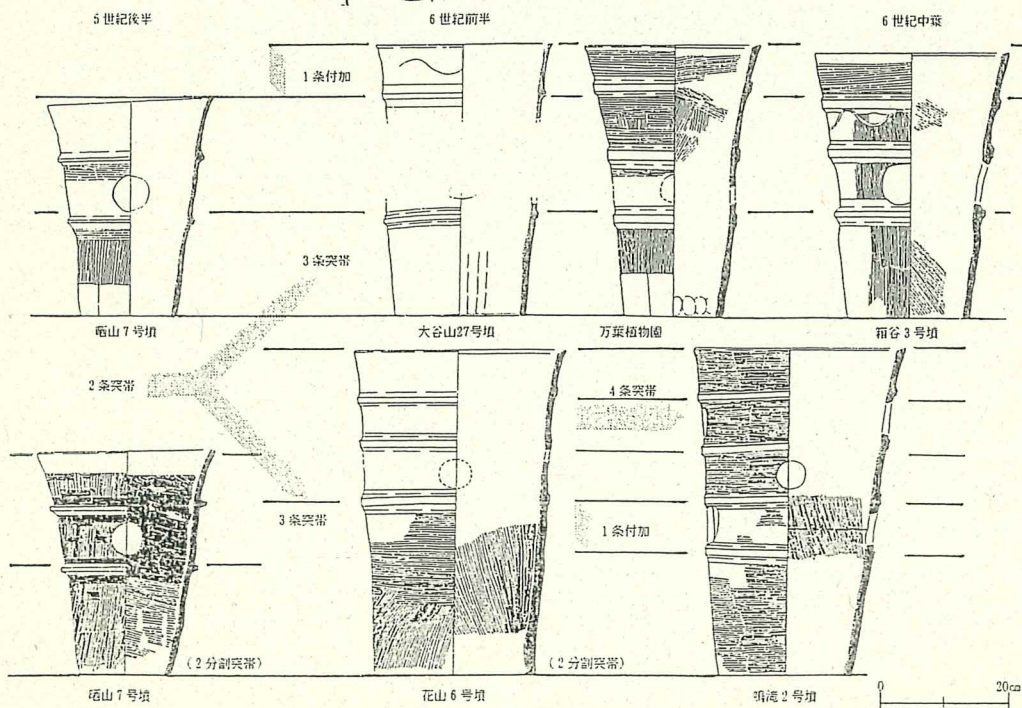


II・III期の2条突帯円筒埴輪分布図



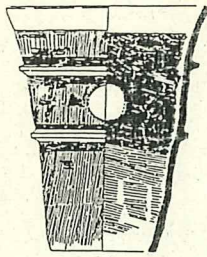
IV期の2条突帯円筒埴輪分布図

第1図 (鑑前1999から)

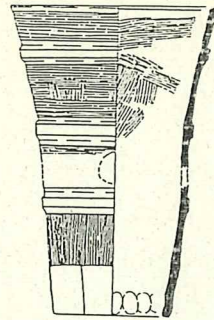
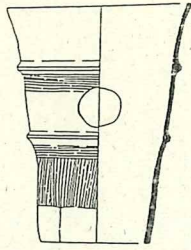


第2図 河内氏による紀伊型埴輪の分類及び変遷案 (河内2005から)

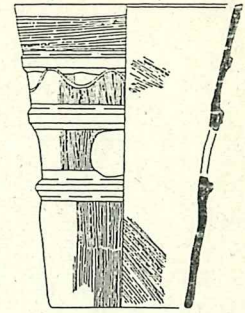
紀 伊



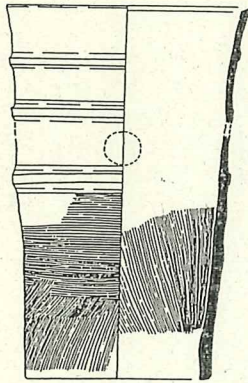
晒山7号墳



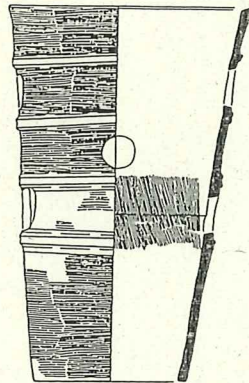
万葉植物園



箱谷3号墳



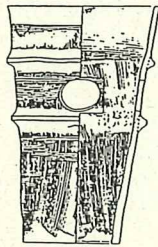
花山6号墳



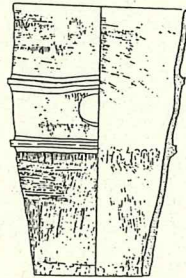
鳴滝2号墳



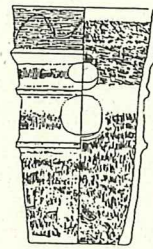
大 和



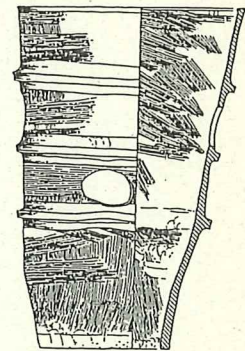
三倉堂遺跡



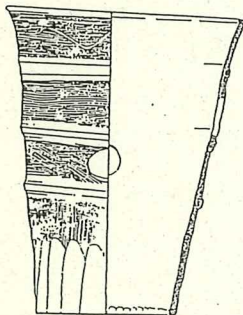
新沢166号墳



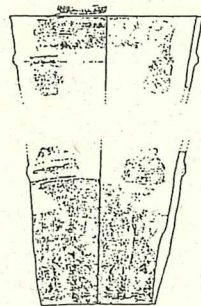
タニグチ2号墳



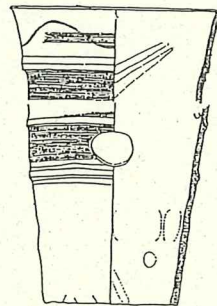
新沢175号墳



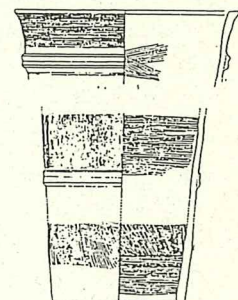
石光山41号墳



忍海H-19号墳



石光山20号墳



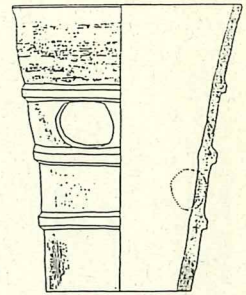
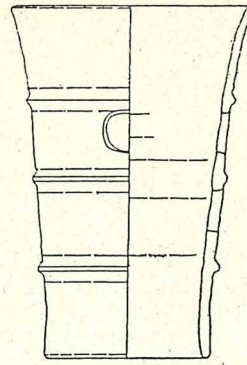
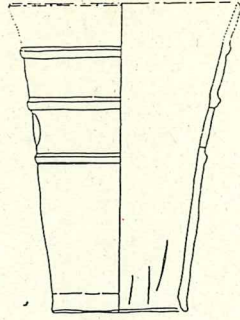
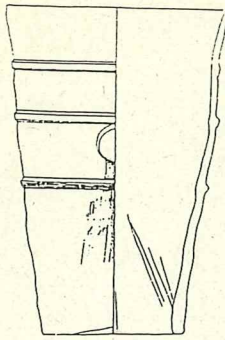
清水谷1号墳

第3圖. 各地域のI形系B類I (昭和20年5月)



播磨

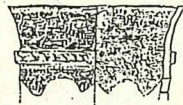
但馬



タイ山1号墳

上野1号墳

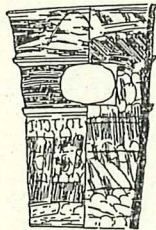
大滝2号墳



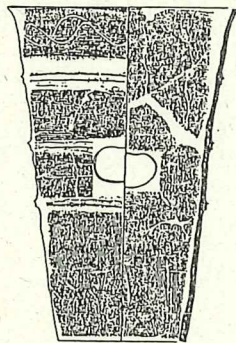
亀塚古墳

0 30cm

近江

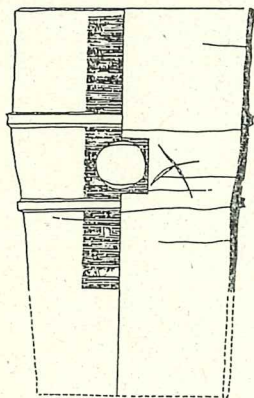


六条遺跡

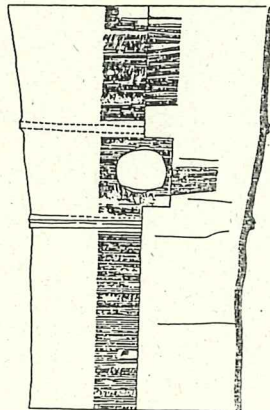


御明田1号墳

山城



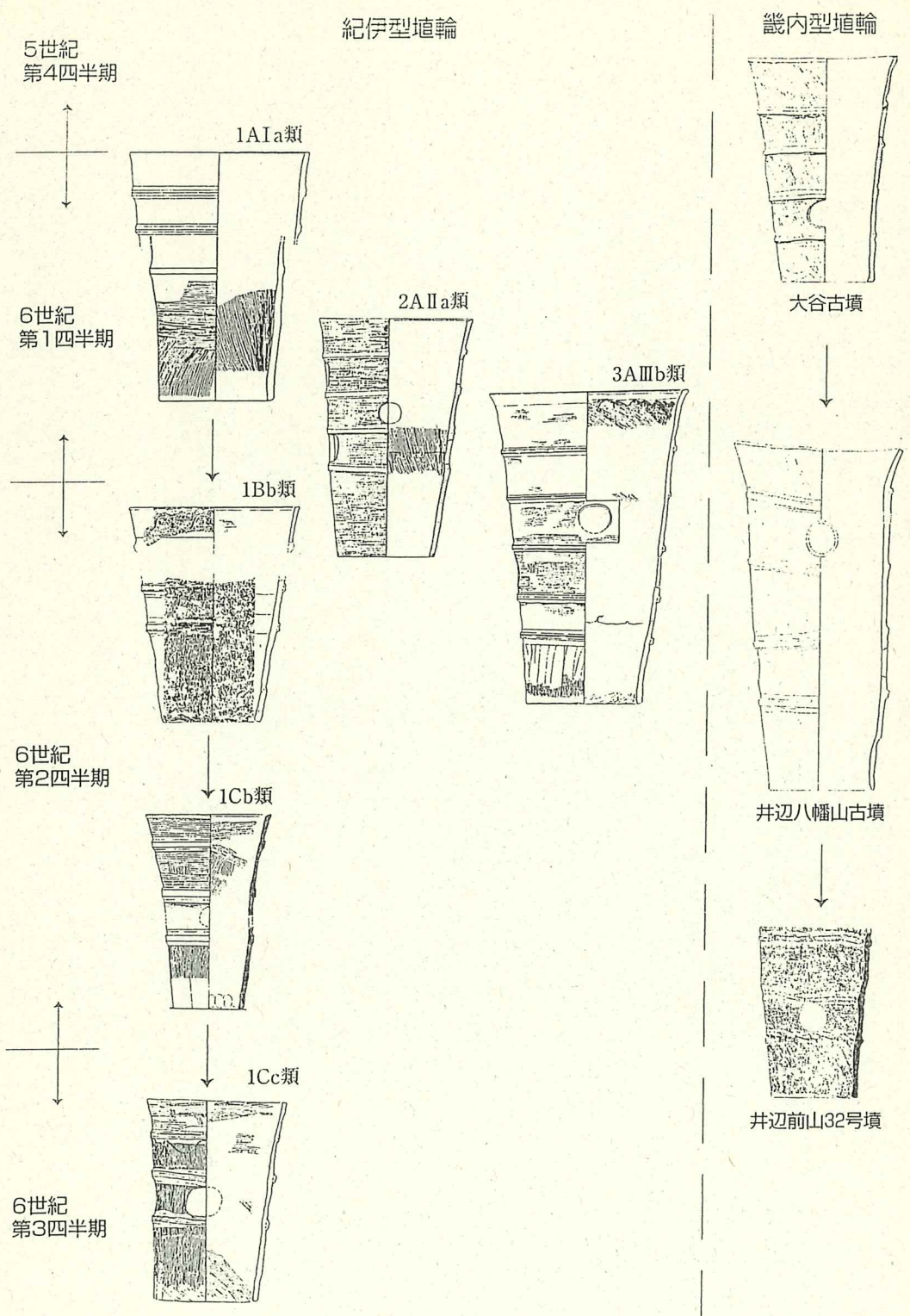
堀切7号墳



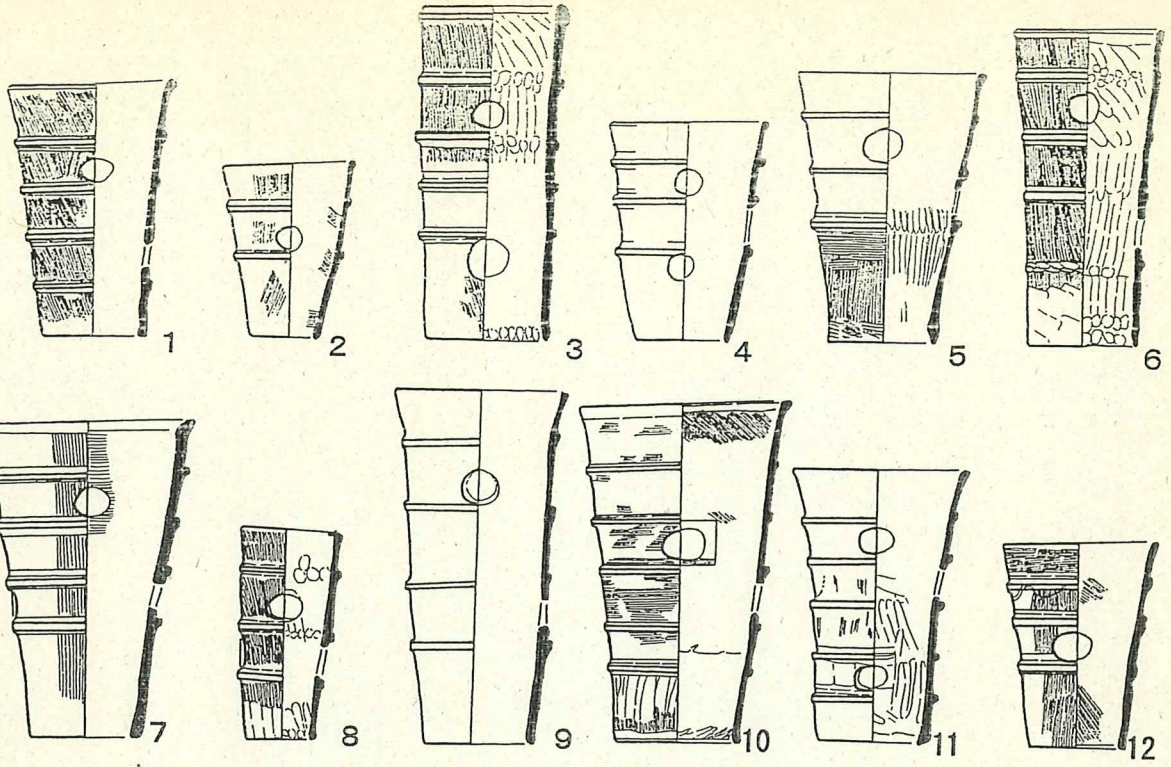
0 30cm

図23 畿内北東型円筒形埴輪

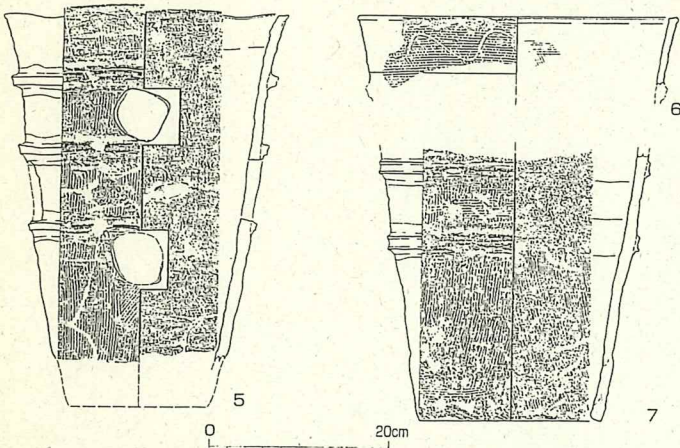
表2-1 各地域のIV群系B類I (河内203号)



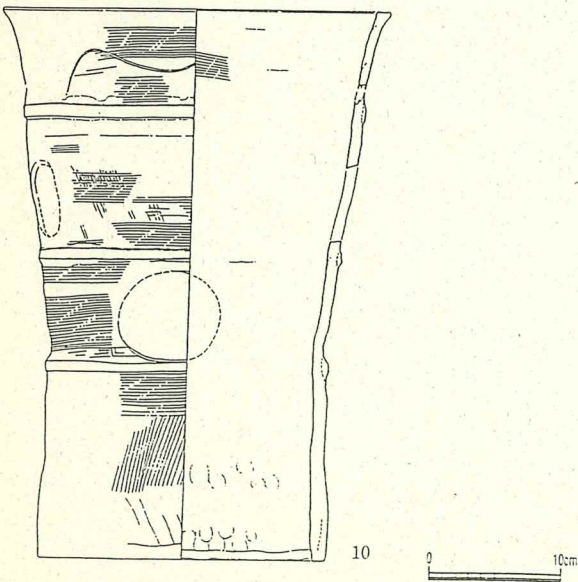
第5図 紀伊型埴輪の各類型とその変遷及び畿内型埴輪との併行関係 (藤原 2008)



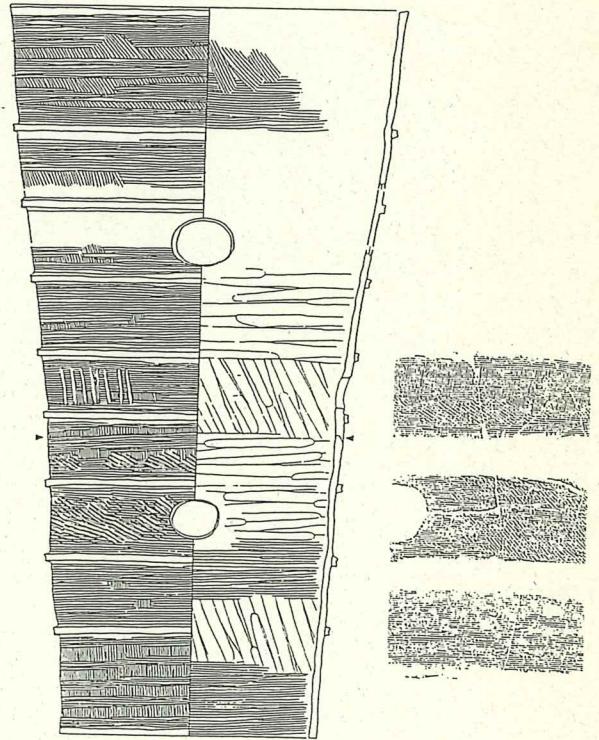
第6圖 穀子地域でみられる埴輪群 (河内 2011年)



第7圖 晒山10号墳出土円筒形埴輪



第8圖 四条市古墳出土埴輪



第9圖 尾路型埴輪 (出伏山古墳)